

街路樹は次から次へと花で着飾り(桜・ツツジ・サツキ・藤)、各々が自慢するかのように彩る。

5月下旬、ウグイスが囀る頃、ようやく本格的な春を肌で実感する。大好きな山菜取りのシーズンが始まる。大地を這い出し瞬く間に成長するワラビからは、人間の成長期の勢いを感じる。

やがて大好きな春は、連絡も断りもなく黙って過ぎ去る。

《 夏(6~8月) 》

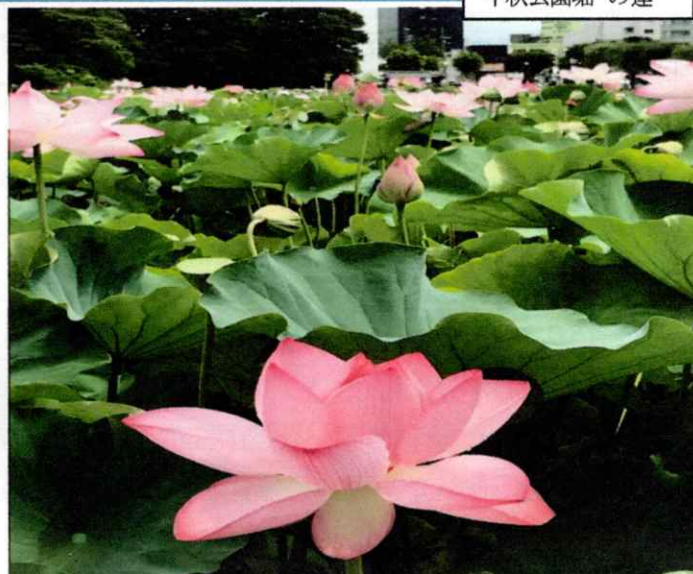
千秋公園・堀の睡蓮の蕾が夏の到来を告げる。やがて睡蓮からハスへとバトンタッチし、池一面を蓮花が埋め尽くす。蓮花の蕾は桃のように色づき美味しそうに見える。蓮花は2カ月以上に亘って咲き誇り、人々に樂園をもたらす。

一方、幼少の頃の水との戯れは、今は河川の汚染と熊の出現で全く期待できない。今年6月のある日、中学の同級生が雄物川河口の鱸(スズキ)釣りを案内してくれた。流木に腰を落として昔を語った。

日本海からの海風が心地よく肌を包み込んだ。日本海を隔てて見える鳥海山は、協和中淀川から見る富士山に類似し、幼少の頃に記憶した勇姿が蘇る。

7月に入る頃、熱燗から缶ビールに変る。飲み放題で中ジョッキ5杯も飲んだ輩の姿は想像できない。

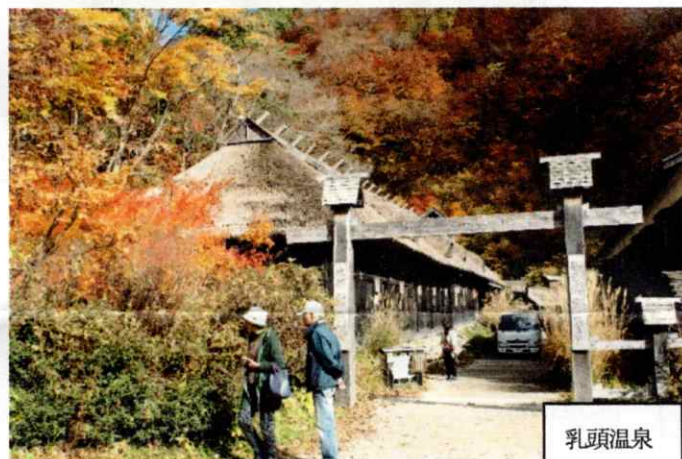
東北・秋田県の夏は、夏の風物詩・祭りで熱く燃えると聞いていた。未だに目にしたことのない“竿灯祭り”“大曲の花火”等は、新型コロナの影響で中止となったままだ。



新型コロナは、人々を我慢強い人間として鍛えてくれるのだろうか? と、前向きに解釈している。仲間と共にジョッキを手に語り合える日を願うばかりだ。

我家の夏自慢は、農家に見劣りしない家庭菜園である。菜園の幸は夏を乗り切る私のエネルギー源でもある。今年は大豊作で隣近所にお裾分けした。皆さんから様に美味しかったと喜んでいただいた。

《 秋(9~11月) 》



乳頭温泉

秋田は『味覚の秋』に相応しい。リンゴ・ブドウ・ナシは全県の各地で栽培している様だ。天王にある農園に、ブドウとリンゴ狩りに出かけた。採りたての果物は色合い、味ともに新鮮で格別だ。長泉町の庭にあった美味しい甘柿を思い出す。

精一杯暑さに耐えて地球環境に貢献した緑樹も、衣替えの時期に入る。街路樹が色づき、ドライブ中の車窓から見る紅葉は、美しく素晴らしい。

矢嶋アケビ農園

